

取組の課題・創意工夫『キーワード 見通し』

○主体的な活動となるよう、今回ゲームは各クラスから募集したが、実際にゲームをする際には、担当教員が説明し、児童がゲームを行うので、当日の児童の主体的運営については課題が残る。

○学級会、代表委員会、企画委員会、5、6年打ち合わせ会、縦割り打ち合わせ会と、どこで何をするか手順を見直し、細かく計画を立てて、児童が主体的に活動できるよう有効的に時間を使っていく。

○より達成感が得られるように、ゲーム内容やクイズについて工夫が必要である。

- ・1ゲーム〇分以内や何グループかが同時にできるよう、内容や場所の工夫をする。
- ・クイズの量を増やす。(学年クイズ以外にも作ってはどうか。)
- ・ゲームでマイナスポイントが付くものより、加点されるゲームの方でやる気を引き出す。
- ・カードに評価する項目を設けて、加点方式にする。

取組の成果(効果)『キーワード 自覚とあこがれ』

児童の感想

高学年・疲れたけど、楽しいウォークラリーだった。・まとめることの難しさが分かった。・達成感を味わうことができた。・全員が楽しむことができてよかった。・まとめる、計画を立てる、手本となる、気を配る、協力する大切さが分かった。

中学年・学校みんなが考えたゲームができて楽しかった。・6年生がみんなに声をかけて優しくかったからこそ、ウォークラリーが楽しかった。・6年生はいろいろなことを教えていた。お手本になった。・全員でやってできたのが楽しかった。・みんなで協力するのばかりだったから少しは仲良くなれたかなと思った。

低学年・自分たちのクラスのゲームが選ばれてうれしかった。・ゲームが楽しかった。・5、6年生のお兄さんお姉さんが優しく教えてくれてうれしかった。・6年生はどのゲームも上手でびっくりした。・自分が3年生になったら、1、2年生の面倒を見てあげたい。

この縦割り活動と校外ウォークラリーを通して、高学年は、リーダーとしての自覚をもち、まとめることの大変さを知るとともに、低学年が活躍できるように気遣い、引っ張っていかなくてはならないという思いをもつことができた。低学年は、高学年を憧れの存在として認識していた。高学年の存在が低・中学年にとっての良きモデリングとして存在し、低、中学年も「あんな6年生になりたい」という気持ちを、活動を重ねるごとに育てていくことができた。また、思いやりの心、規範意識、問題解決の意識を育てることができた。学校評価アンケート(児童の意識)では、きまりを守っているは昨年12月92%→今年12月95%、友達の嫌がること(言葉の暴力やいじめ)をしないように気をつけるは91%→94%と少し昨年度を上回っている。

今後の展開『キーワード 生かす』

深めた縦割りのつながりを1月の縦割り遊び、2月のリーダー引継ぎ縦割り遊び、3月のお別れ集会へと生かして、お互いに積極的に声をかけてくことができるようにする。3月の最後の集会では、6年生にお祝いとお礼の気持ちを伝え、6年生から在校生に一人ずつに、言葉をかける時間を設定していく。学校生活の様々な場面で、つながりを生かしていく。

他校へのアドバイス『キーワード つなげる・広げる』

異学年の活動は、お互いに学び合うことが多いので、縦割りを生かした活動を、年間を通して行っている。縦割りウォークラリーは、校外から校内に変わって2年目で、昨年の反省を生かして、今回は児童がより主体的に活動できるよう、各クラスで話し合っ、ゲームのアイデアを募集するという活動を取り入れた。児童ならではの楽しいアイデアが出て、昨年度より主体的な活動となった。来年度は当日のゲーム運営を児童が協力してできるよい方法はないか、縦割り活動を生かした児童主体のウォークラリーにするための方法を模索して次年度へとつなげたいと思っている。